

松川町リニア中央新幹線建設工事対策委員会〔第25回〕会議録

1. 附属機関等の会議の名称 松川町リニア中央新幹線建設工事対策委員会〔第25回〕

2. 開催日時 令和5年3月27日（月） 19時00分から20時15分まで

3. 開催場所 松川町役場 2階 大会議室

4. 出席者氏名

【松川町リニア中央新幹線建設工事対策委員】※敬称略

知久克志、新井正彦、矢澤登、北林昇、唐沢寛文、下澤義彦、中平文夫、坂本勇治、高坂龍夫、小澤文人、矢澤良一、松下敏章、宮沢喜好、熊谷誠、神田葉子、吉澤裕、西尾明廣、北原俊秀、寺沢茂春

【JR 東海】

中央新幹線長野工事事務所 杉浦所長、太田垣課長、齋藤主任、工藤主席

// 大鹿分室 水上室長、水野主任

【長野県】

飯田建設事務所 リニア整備推進事務所 大島企画幹兼調整課長、田中課長補佐

【役 場】

宮下町長、小沢課長、片桐係長

5. 議題

(1) 発生土運搬について

1) 松川町より

①町道整備の完了報告

2) JR東海より

①大鹿村内リニア工事進捗状況

②発生土運搬車両の運行状況

③環境測定の結果

④その他

3) 質疑応答

6. 非公開の理由（会議を非公開とした場合）

—

7. 傍聴人の数

4人

8. 会議資料の名称

・会議次第（町作成）

・別紙資料（松川町作成）

で、ぜひ皆様のご協力をいただきながら会議を進めていきたいと思ひます。よろしくお願ひします。今日はよろしくお願ひします。

(小沢課長)

続きまして宮下町長お願ひいたします。

(宮下町長)

皆さんこんばんは。松川町リニア中央新幹線建設工事対策委員会ということで、大変年度末のお忙しいなか、足をお運びいただきましてありがとうございます。また、日頃は松川町内で行われております様々な事業に対しまして、お力添えをいただいておりますことを感謝申し上げます。ありがとうございます。

年度末ということ、先ほど委員長からもありましたが、コロナの関係が段々次のステージに変わってきたということもありまして、大変今会議が集中しております。私も本日このような格好ですみませんが、会議事項に入る前に一旦抜けさせていただいて、後ほど戻ってまいります。よろしくお願ひいたします。

地域のいろいろな事業も段々動き始めまして、飲み会なんかも皆さん段々増えてきたのではないかとお願ひしております。実際にこの2年3年と会議ができないなか、何か進めるということなかなか難しかったなかで実際に会って話してみるとまた打ち解けて先に進むという経験がまた改めてされている方も多いんじゃないかなとお願ひしております。今回リニアの話もいろいろあったなかで松川町の中で動いております。

例えば、現在発生土をやっていただいておりますが、大変 JR 東海さんには気を遣っていただいているので、後ほど話が出てまいるかもしれませんが、町もモニタリング調査を行っても大変マナーがいいという話を聞いておりますので、引き続き安全をお願ひいたします。

また、1点安全という話では、先般、1月から2月にかけて町内の小学校で実際にダンプカーをグラウンドに乗り入れて交通安全教室をしていただきました。こちら県内ほぼ全てのメディアが取材に来まして、県内外でも大変いい取り組みだという評価をいただいております。

本当に大変人をたくさん割っていただきました JR 東海さんにはこの場をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございます。

また、実際子どもたちにも聞いてみましたが、やはり大きな車というのはなかなか近づいた経験がないということで、そこは危険なことや、どうすれば安全かということを親切に教えていただいて面白かったという話も聞いております。またこういった取り組みが他の地域にも広がっていけばいいなとお願ひしております。本当にありがとうございます。

また年度末を迎えますので、本日で変わられる方、また委員変わられた方もいらっしゃいます。

またいろいろ各団体にも持ち帰っていただいて、この場で前向きな会議に繋げていただければなとお願ひしております。本日、どうかよろしくお願ひいたします。以上でございます。

(小沢課長)

続きまして JR 東海より中央新幹線長野工事事務所杉浦所長お願ひいたします。

(JR 東海／杉浦所長)

皆様改めましてこんばんは。JR 東海中央新幹線長野工事事務所長しております杉浦禎信と申します。今後は、お忙しい中また夜遅くお仕事終わった時間でお疲れのなか、我々にこのような説明の場に足をお運びいただきまして誠にありがとうございます。

また日頃から、この中央新幹線の建設事業に関しまして皆様のご理解ご協力を賜っておりますことを心からお礼を申し上げます。ありがとうございます。

本日我々の方からですね大鹿村内のリニア工事の進捗状況、それから発生土運搬の車両の運行状況環境測定の結果、それは先ほどもありましたように 1 月 2 月に松川町内の小学生を対象に交通安全教室を開催させていただいたということで、その内容についても簡単にご紹介できればというふうに思っております。本日も、丁寧なご説明を心がけたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

(小沢課長)

続きまして長野県より飯田建設事務所リニア整備推進事務所調整課大島課長お願いいたします。

(長野県／大島課長)

皆様、こんばんは。飯田建設事務所リニア整備推進事務所調整課長大島でございます。日頃より、対策委員会の皆様をはじめ皆様方につきましては、長野県の進めております建設行政につきまして、ご理解ご協力を賜りまして誠にありがとうございます。またリニア中央新幹線の建設促進といった意味では、町当局はじめ皆様方の格段のご理解ご協力を賜っていること、私どもからも御礼申し上げます。本日も様々議論いただきまして、事業の方が円滑に進むようお願いしたいと思っております。よろしくお願い致します。

(小沢課長)

これより会議事項に入りますが、対策委員会設置要綱第 5 条に、会議は委員長が議長となることから、中平委員長の進行でお願いをいたします。

(中平委員長)

それでは 3 番の会議事項に入りたいと思います。まず最初に両括弧 1 の発生移動運搬について、片括弧 1 の松川町より、町道整備の完了報告等々について報告をお願いします。

小沢課長説明

(中平委員長)

続いて片括弧 2 の JR 東海様より①大鹿村村内リニア工事進捗状況、②発生土運搬車両の運行状況、③環境測定の結果、④その他についての説明をお願いします。

JR 東海工藤主席説明

(中平委員長)

ありがとうございました。ルールを説明いただきました。これからは質疑応答に入りたいと思いま

す。質問のある方は挙手して質問の方をお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。はい矢澤さんどうぞ。

（矢澤登委員）

上片桐区会の矢澤と申します。小松川橋の工事をさせていただいておりますが、ちょっと気になることですが、橋を渡って、護岸線と国道が交差する交差点のところに、今左折と右折の仮だと思われる白線が引かれております。白線はこれから今後どういうふうになるのか。そして今ある白線は安協さんや警察から安全等についてご指導いただいて書いてあるのか。そしてもう一つは、護岸線と国道の接点のところに、白い停止線の白線が引かれていますが、あの白線はどうなるのか教えていただきたいと思っております。

（長野県／大島課長）

県の飯田建設事務所の方からお答えさせていただきます。松川の橋梁の方の補修の工事でございますけれど、たまたまといいますか、このタイミングでやらせていただいております。今発生土の運搬ルートとも重なって、大変ご不便をおかけしているところでございます。現地の方のおっしゃっていただいている部分は護岸線の方になりますので、町道になります。

工事のためのその車両の誘導ということで、今回ああいった形で分離をさせてやらせていただいておりますけれど、それについても、私どもと、それから警察の方にも協議をさせていただいて設置をしておるものと思っております。

橋の工事が終わりましたら、それについては元に戻すということで、その後も今のままというわけではないということでございます。のちのち町道としてどういう通り方にしていくのかについては、今後町と交差する国道を管理してる私どもの方と相談をして、どういう形にするかということになるかと思っております。

（中平委員長）

矢澤さん、いかがでありますか。

（矢澤登委員）

状況については理解できましたが、率直に言って今左右の白線が引いてあるところで止まっちゃうと、右側桜の木が邪魔して左側の大きな看板があって見にくくて、あそこの場所はちょっといかなんて思っています。

それにしても、あのダンプの動きを見ていると、結局橋を渡って直角に曲がるので、曲がりきれず、大きく曲がっちゃうんですね。そうすると護岸線から待っている車のいる場所が狭くなり、ちょっと危険な部分もありますので、今引いてある白線を残すのかとかそこら辺もう一度安全面を再検討して極力事故のない運行ができるように検討していただきたいと、そんなふうに思います。

（中平委員長）

それでは町の方から宮下町長。

（宮下町長）

はい、ありがとうございます。今日は担当課が来ていませんが、実際に工事が終わるまでの間、今の状況も踏まえて、工事は県の方でやっていますので、町の方から申し入れして、より安全になるようにということ、今日こういう話があったということをつながせていただきます。ありがとうございます。

（中平委員長）

よろしいですか。他にはいかがでございますか。

（宮沢委員）

くだもの観光協会宮沢です。カレンダーのことでお伺いしたいのですが、さくらんぼ狩りについて、6月の半ばから7月いっぱいかどうか分からないのですが、6月半ばから始まるのですが、ちょっと私詳しくは私さくらんぼ専業農家じゃないもので、組合の方々がちょっとその土曜日の運行を控えていただくとありがたいと言われるかもしれないと思っています。例えば、7月の後半よりは6月の半ばの方がさくらんぼの始まりなので、7月の後半の必要なのか、それを6月に移してもらった方がいいのか、その判断はできないですが、後ほどお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

（中平委員長）

今の7月の分を6月に移していただきたいというお話でよろしいでしょうか。

（宮沢委員）

6月17日あたりからさくらんぼ狩りにくる乗用車がたくさん見えるんじゃないかと私は想像しています。私は観光協会ではあっても、さくらんぼにはちょっと詳しくわからないので（確認する）。

（JR東海／水上分室長）

ご質問ご意見ありがとうございます。大鹿分室長の水上でございます。今いただいたご意見でございますが、工事カレンダーですね、これは昨年一昨年から、ずっといろんな市町村からご意見をいただいております、今まで土曜日は基本的に運行するということで行ってまいりました。何で運行するかって言うと、トンネルは日曜日以外、毎日掘っております、どうしても土を外に出していかないとなかなかトンネルを掘ることができないので、土曜日は基本的に運行するということではじめてまいりましたが、松川町以外も他の大鹿村、中川村と土曜日の運休というご要望がある中で、年間20日ほど土曜日を運休する方向で調整させていただきました。

7月も6月もいろいろな地区でこの曜日を休んでいただきたいというご要望はありますが、松川町、中川村、大鹿村、それから伊那市とかいろんなところで全部要望を聞くと全ての土曜日が運行できなくなってしまいますので、各行政さんと調整させていただいたのがこの土曜日運休というところですね、何卒今年の6月の土曜日運休についてご理解をいただきたいと思っております。

もう少し詳しくご説明すると7月1ヶ月土曜日休むということで、いろんな観光協会からのご意見を踏まえて休ませていただいております。土曜日を休むということは、土曜日はトンネル掘削していない土を確保しないとイケないということで、7月は仮置き場に確保できるように、6月のうちに

なるべくそれを外に運搬していきたいという予定もございまして、6月後半の土曜日だけはご理解をいただきたいというふうに思っております。

（宮沢委員）

さくらんぼにつきましては、土日の来客をあてにしておる農家が多いので、本当1日だけでも、6月24日を止めていただいて、7月29日の方だけでもお願いしていただきたい。

（中平委員長）

今のご意見は7月29日を営業にして6月の最後の土曜日を何とか休みしていただけないかというご要望ですが、いかがですか。

（JR東海／水上分室長）

ご意見としては頂戴しますがその通りできるかどうかというところの約束はできませんが、ご意見として伺わせていただきます。

（宮沢委員）

よろしくをお願いします。

（中平委員長）

今の要望をぜひまたご検討いただければと思いますのでよろしくお願いします。その他にご意見、ご質問のある方。

（寺沢委員）

公募委員の寺沢です。前々回のときにお聞きした、発生土の搬出量の事でございます。そのときに約3割だとか4割とかおっしゃってございましたけれども、ここの搬出計画には2023年しか載ってないので、毎回要するに発生土の置き場所が決まったらご説明くださるとかそういうふうなことはお聞きしておりますけれども、絶対量として今どれだけ運んだのか、前々回に聞いたらまだ3、4割だということをお聞きしました。これからまだそれだけの量が出るということは大変なことだなと私も思ったわけですが、今現在は何%ぐらいいったのでしょうか。それをお聞きしたいということと、松川町には直接的に関係はございませんけれど、静岡県の問題は前向きな問題として考えていくと、川勝知事さんとの交渉の中でまだまだ難航していますので、となると松川町にも工期が長くなっていくということも考えられます。長い方がいいのか短い方がいいのか密度が高い方がいいのか薄い方がいいのかという問題ではあると思いますけれども、ぜひそこら辺のことも少し松川町と直接的に関係はございませんが、そういったことも新聞報道ではたまに出てきますけれども、その2点をお願いいたします。

（中平委員長）

発生土の問題と静岡県の問題で長野県松川に影響する度合い等々について質問ありました。

（JR 東海／太田垣課長）

ご質問ありがとうございます。発生土の計画につきましてはおっしゃった通り、決まったところから運行計画についてご説明していくというような説明をずっとしております。

前々回には全体でどれぐらい延長的に掘っているかっていうところで、約 3 割って言うふうにお答えしているかと思えますけれども、大体延長 8 キロにして、青木も含めると全部で 13 キロぐらいあるんですけれども、13 キロで 1 割は 1.3 キロにもなるんで、3 割から 1 割プラスになっているかといったら、まだそこまですべてでないような状況でございます。特にちょっとあの数字はちょっと用意してないんですけれども、今そんなような状況でございます。

後半の質問は、静岡の状況を踏まえて松川町の工事車両の運行も増えるのではないかとということでございますけれども、長野県内の工事についてはですね、これまでのペースを緩めることなく、当初の予定通りでなるべく早く完成させる方向で進めておりますので、そのような考えでいるということをお願いいたします。

（中平委員長）

寺沢さんどうぞ。

（寺沢委員）

今絶対量が前回 3 割ぐらいで今何何ておっしゃいました。

（JR 東海／太田垣課長）

延長が長いものですから、まだ半年で 3 割が 4 割になるというところまでは進んでいないという状況です。

（寺沢委員）

わかりました要するに 2023 年度以降はお示しがいただけてないので、そこにポイントを持っていかざるを得ないので、今のおっしゃるようではなかったというふうに申し上げます。

（中平委員長）

よろしいですかはい。

（宮沢委員）

先ほどの件を確認しましたら、17 日その辺から始まって早いうちに来るお客さんたくさんいる。7 月の後半の 2 回は運行していただき、22 日と 29 日はさくらんぼも終盤になってくるので、それよりは 6 月の後半の 17、24 の運行はちょっと悲しいということで是非前向きにお願いします。

（JR 東海／太田垣課長）

ありがとうございます。お話を伺うところからかなと思いますので、また改めてお話を伺いに参ります。ご期待に沿えるかどうかはわかりませんが、まずは話を聞くところからだと思いますので、よろしく申し上げます。

(中平委員長)

その他に、はい西尾さんどうぞ。

(西尾委員)

公募委員の西尾でございます。私の今日ご説明をいただいた JR 東海さんの方からご説明いただいた内容の質疑と少し違います。前回第 24 回に要対策土について、どれくらい出ているか質問をさせていただきました。太田垣課長の方から、私どもが想定しておりも全然少ないという状況だというご回答いただいております。その後前回から 3 ヶ月くらい経っているのですけれども、大体その要対策土の出ている量的なものというのは変わらないのでしょうか。量的では 3000 m³くらいであるというご回答いただいているので、実際のボリューム等わかりましたらそちらの方もあわせてご回答お願いいたします。

(JR 東海/太田垣課長)

ご意見ありがとうございます。要対策土ですけれども、前回ご説明した後同大鹿の方からは出てませんので、前回の実績は変わってない状況でございます。そういったところからもですね思ったよりも少ないのかなというところがございます。ただただこれから先まだ静岡に向かってまだまだ先が長いものですし、その間地質がわかってないところもあるものですから今後ちょっと出てくる可能性も十分にあるなどは考えてるところでございます。

(中平委員長)

西尾さんどうぞ。

(西尾委員)

はい、ありがとうございました。それから先日新聞報道では、要対策土を今保管してある要対策土に中和剤みたいなものを混ぜ込んで、自営工事かどうかわかりませんが、鉄塔の工事の土台に使うとありましたが、今回その想定しているボリュームというのは大体どれくらいになるのでしょうか。

(JR 東海/水上分室長)

はい、大鹿分室の水上でございます。ただいまのご質問の変電所は当社の計画する変電所に対策を使うというご意見だと思いますけれども、今の段階ではまだわかりません。ただ不溶化の検討は引き続きやっておりますし、今のところその不要化の効果が得られているのですが、今実際にこの変電所というか予定地といえますか、あの仮置き場は大鹿村で言っておりますが、そちらでこの不溶化の試験を実際に現地で行っています。そこでですね、うまくいい結果が出られ得られれば、そこの変電所に対策土を活用することも考えているということで、ボリュームも含めてまだそれはこれからというところがございます。

(中平委員長)

他にはいかがでございますかね。はい矢澤さん。

(矢澤登委員)

はい。町が中心になるかと思うのですが、4月当初の話題の中に鶴部の交差点の改良とあと交差点の近くの三叉路についてお願いをしたときは文章で書いていただいて、道路脇に鶴部井があるため、関係者と協議をして対応を検討しますと。そのときに、実施する方向で確かメモしています。また、もう一つは三叉路について、関係する地権者と協議をして対応を検討しますというお答えをいただいたんですが、現在どういう状況になっているか。教えていただきたいと思います。

(中平委員長)

はい、小沢課長どうぞ。

(小沢課長)

はい、質問ありがとうございます。鶴部井に関しましては、今現在正直進んでおりません。それはダンプの運搬が始まるということで、同時に工事ができないという状況から、今現在は測量も何もしてない状況です。それから三叉路の改良というのは、今の鶴部の信号から下に下りてって左に入っていき三叉路がありますが、その位置があまりにも交差点に近いということで、それよりももう20メートルぐらい下に交差点を作ったらどうかということで、鶴部の地主者さんからは土地の方は協力するというお話伺っていますが、そこまだ工事の方は測量も何もしてない状況です。まずやるかどうかはまだ決まってない状況でございます。

(中平委員長)

矢澤さんどうぞ。

(矢澤登委員)

状況はよく分かりましたが、今後について、話をさせていただきたいと思います。資料いただいた7ページを見ていただきたいと思います。

これはJRの方にも県の方にもご理解いただきたいと思いますが、鶴部という自治会はここに書いてあります鶴部の信号があります。鶴部交差点から鶴部線を降りて、いわゆるインター線とぶつかるわけですが、鶴部は天竜川と片桐松川の浸食によっていわゆる両側の崖の上にある大地であります。

鶴部からよそへ行くには、この下へ行く道と鶴部の信号の道、この鶴部線から出るしかないわけです。これまでは多少気にはしていますが、今後を考えたときに、もう来年の4月からは最低鶴部線が150台は通ると。そして信号は150台通って、下の鶴部線のインター線と交わる場所は渡場の数と同じ数がここを通過してくるわけです。そうすると渡場の数は計算すると540台ですので、結局出るのにもう鶴部は出るのにダンプ150台と540台がどんどん動いていくなかを出なきゃいけない状況で、極端なことを言うと陸の孤島のような状況になる可能性もあります。このまま放っておくと、もし何かあったときにいろんな心配な面があるのでぜひ、この自治会の安全面を考えた場合、要するに出やすくするような対応してくれないと、このままでいっちゃんともう鶴部は非常に生活面で心配な状況が出てきますのでそこら辺、これからの今後を考えて、状況によってはまた中川の方からというような話も聞いておりますので、そういう安全面というかそういうことも考えて、例えば信号なんかは町ばかりではできないと思うので、県の方でも考えたりというようなことでち

よっところら辺を普通の自治会とは違ってなかなか交通の便を検討しなければいけない自治会でありますので、これから大事に考えていただきたいなと思います。

（中平委員長）

鶴部線は他に逃げるところがなく、今後の安全面を考えて、どのようにしていくかをご質問いただきましたが、いかがですかね。

（小沢課長）

鶴部線 40 台通るといえるのはお話ししたので、これはご協力いただきたいと思います。

それから国道の方に関しましては、今現在信号がありますので、信号に沿って出入りしていただくというような形、それから下に向かって前の楽園アルプスの前の三叉路になると思います。確かに JR のダンプはここを通るのが主になると思います。先ほど言った県の工事で中川村の北林飯島線が完成すれば、渡場の信号をまっすぐ北上していきますので、中川駒ヶ根に発生土を持っていく場合はそのルートを行ってもらおうと、ただ中川村でも往復は困るというような方もいらっしゃいますので、その場合、国道を南下してきて新しい洞新線を通ってもらって大鹿に帰ってもらおうと。

ですので、鶴部線から下に降りた三叉路で右側から来る JR のダンプが多いような形ですので、JR さんと話をしながらどのような形で安全対策ができるのかをみたいと思います。その三叉路に対しまして信号機というお話がありましたけども、県の公安に聞くと、信号機が 100m から 150m 離れてないと設置はできないと言われていたのと、三叉路にはなるべく信号機つけないというようなことも言われていますので、今現在では信号機ちょっと難しい状況なのかなというふうに思っています。早めに県の方の北林飯島線の工事が進めば、そちらの方にダンプの方は回せるのかなと思っています。

伊那の方に関しましては、令和 6 年 3 月いっぱいまで運搬終了になりますので、その間、鶴部線は通るような形になってしまうのかなと思っております。

（中平委員長）

矢澤さんいかがですかいいですか。はい。できるだけ早急に考えていただきたいと思います。他にございませんか。はい。北原さんどうぞ。

（北原委員）

北原と申します。私も時たま大型自動車を通るんですが、正直申し上げると運転に集中してるというには見えない。ただ違和感があるなと思うのは、JR 東海さんの車も片〇なので問題はないのですが、下にあるファクトリーバーのシブキヤのダンプ、それからあと松川のしゅんせつの関係の残土を運んでいたダンプが下から上がってくる傾向が非常に多いので、見れば地元の方は全て JR 東海さんのダンプとおそらく見られる方が多いのではないかなという気がします。

小沢課長にもお願いしたのですが、町からそういう点についてこの会社だけは通るなとかいうようなことの規制はできないにしても、昔から大鹿線をご存知だと思いますが、地元の車両は上りの車がとりあえず一時停止をして、まず上の荷物を積んだ車が優先にというようなダンプのドライバーみんなそんなお互いの部分をやっぱりやってる以上、町としてその地元今のような意見を、地元の特にダンプの会社におきましてお願いという形をやるべきではないのかなという気がします。

前もお願いしたのですが、期間は決まっているということもあり、残土をとにかく出さなくちゃ、この工事も終わるわけですし、もう工事が始まった以上はこれはどんな反論しようが工事は止まらないですよ。私もこの間叔母が上郷にしまして、いよいよ風越の穴ぼこが始まるなという説明会に私の代わりに行ってくれないかって言われたが、実際行きたくないんですよ。同じようなこの会議の中の内容というのはただ賛成も反対もあるわけで、もうこれはどうしても工事が始まれば仕方ないと思います。ましてや飯田は松川と同じように、どんどんあっちもこっちも穴開けて残土が運ばれば、もうここ一点だけでっていう部分は確かにその地元に見ると非常に私も散々いろいろ言ったのですが、始まったらもうどうにもならんじゃないか、ここが一番の一言です。

これは反対という意味ではなくて、ただ 1 点お願いしたいのは先ほど交通安全指導という言う対策の形を子供たちにもとっていただいたっていう反面、今から帰ってくる車においてはまだ速度違反の車両があります。正直なところ、こないだも 2 週間前ですけども、70 キロっていう車で走っている大型がいます。

これはあの運転手というのは不思議なもので、自分の会社の車を前にあると一緒に走りたいという、こんなようなニュアンスにドライバーって比較的なるものですが、追いかけておそらく一緒に走ろうというようなそんなような感じには見えるんですが、やはり道路交通法というのは決まっております、実際大型の車両から運転するってことは気持ちもでかくなれば非常におっかなさも何もありませんが、一般車両から見上げるっていうことになるとどうしてもやっぱり事故っていうものは時たま全国的に大きな事故に絡んだようなものは乗用車は大抵もうねぶつけられれば即死ですよ。

ですからこの安全っていうことを盛んに私が言うのは、自分で持っている経験上やっぱりどうしてもやっぱりそれをお願いしていく方法しかないと思います。

ですから、速度の超過についてはいろいろ対策はドライバーに任せるきりではなくてそれを記録する記録計はちゃんとついてるわけですし、本当にちゃんとした会社が安全運転管理者が全てタコグラフをチェックして、速度超過に関しては給料の方でも減額するっていうような会社も私聞いておりますし、そういう装置もあるわけです。

ただ、今見ていると個人事業主のようなダンプもう相当チャーターで来ているわけだから、その一つのレベルを上げるっていうのは相当これは朝の朝礼なりなんなりドライバーの教育というところで、こと細かくうるさく言ってもらわないと、やっぱり直っていかないんじゃないのかなという気がします。

本当にそれだけはとにかく徹底していただきたい。事故起こしたらもう終わりですから。

あともう一点、伊那工区から帰る車は駒ヶ岳のサービスエリアを出て帰るルートってのはどっか決まっているのですか。帰り道はこの道を使ってはいけないというような指定はないのですか。

(JR 東海 / 太田垣課長)

駒ヶ岳のサービスエリアから出て松川まで戻ってくるルートは、二つのルートを分散して通るよう
に。

(北原委員)

まっすぐ降りる車と農免道路を飯田へ向かうとか。

（JR 東海／太田垣課長）

駒ヶ根市と飯島町を通るようにしている。

（北原委員）

なるほど。ご存知かと思いますが、飯島を南下する道は農免 40 キロ制限ですよ。でも後ろついていると 60 キロ 65 キロという速度です。これが農半期になると田んぼトラクターが走行しているので、地元に対してはそういう気を回してもらおうということが大事ではないのかなと思います。

（JR 東海／太田垣課長）

はいありがとうございます。今の速度のお話は何度もお話してますが、これなかなか何度話してもなかなかゼロにならないようなこともあるんですけども、引き続きしっかりとですね指導してまいります。ありがとうございます。

（小沢課長）

最初の質問でございますけれども、他の会社の指導というようなことも報告をいただきました 2 月の下旬に松川町と中川村と大鹿村と共同でやっております安全対策協議会の実施をしました。そこには、小渋砂利組合それから大鹿砕石それから生コンの松川モルセウさんも来ていただきまして、あと JR さん、県それぞれ来ていただきまして話し合いをしております。モニタリング調査の結果が、JR さんのダンプは非常に交差点の進入もおとなしいというようなこともありまして、スピードもあまり出てないというような形でありましたものですから、小渋砂利や大鹿砕石さんの JR じゃないダンプの安全運転を心がけていただくようお願いいたしますと、それと、挨拶クラクションは絶対やらないでいただきたいということでそれぞれの会議の中で話し合いをして、守ってくださいというような形で動いております。また、1 回だけの会議ではありませんので、また今後とも 3 町村で安全対策協議会を開きますので、その時にはまた同じようなことで申し添えていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

（中平委員長）

はい、どうぞ北原さん。

（北原委員）

今おっしゃっていただいたのですが、見る限り地元車両の攻撃になりますけれども、要するに一般車両でも今、サイドのスモークガラスは禁止されていますが、それを平気で平然としてつけてる地元のダンプがいるという。だから、結果そういうところで、全車両・全会社に対して町としてもお願いベースであってそれが徹底されないっていうことは先ほど JR さんも言われたけども、やっぱり聞く耳がないのか。地元に対してもそれを当たり前としてしまうのかっていう問題があると思います。新井の交差点見ていると、地元の車両については、本来は大型の車両って左側を、サイドミラーを見ながらゆっくり回らないと内輪差っていう問題がありますから、当然のことながら身を包んでおろうがなかろうが、ゆっくり徐行しながら回るのが本来のドライバーではないかなと思うのですが、地元の車は粋がって本当に黒線をつけて走るぐらいに回り込んでくる車が多々あります。これはもう運転手のモラルだけしかないのですが、自分が乗っていて、同じ運転士になりたくない

なと思うのはそこにあるので、これは町としてもやっぱりそのせっかくそういう会を開いていただくのであれば、その点はもうやっぱり徹底した形でチェックをしていただくということと、会社に安全の件については車両に対して、そんなスモークを張って横が見えるっていう状況に黒い紙を貼る必要がないので、そういうものを公然とさして会社自身がやっぱりそれはもう安全運転管理者を置く会社である以上、ありえないと思います。地元の車であろうが、JRさんの関係の車であろうが事故を起こせば全て終わりだという、これだけは地元としても常に言っていただきたいし、もしそういうことであれば、全部その車両ナンバーも控えておりますので伝えますけどね。

整備不良とはっきりとしており、そういう車は生東を走っていても、新宮ヶ瀬橋を 75 キロで走っているのを見かけます。何をこの野郎運転しているだろうと我々が見てそう思いますので、皆さんもそうですが、普段走るときに全然そういう場面に遭遇しないのかは分かりませんが、目がついたときには一言二言やっぱり言うべきであって、常に心がけていただき、うるさいほど言った方が事故には繋がらないと考えますので、小沢課長も含めて、その点をもう一度地元業者に対して伝えていただきたい。そうしないと、いつも槍玉が JR 東海さんになります、決して庇うわけではありません。これは同じことですので、ぜひそれをやっていただきたい。お願いします。

(中平委員長)

はい、貴重なご意見ありがとうございます。JR東海さんが利用しているダンプを見習いながら、地元のダンプの業者の方にもぜひ町の方からも、3 町村でしっかり申し入れをしていただきたいと思いますので、よろしくをお願いします。他にはございませんか。

ないようですので本日の会議事項については、これで終了したいと思います。その他に入りますのでここからはマイクを事務局にお返しします。

(小沢課長)

はい、それでは 4 番のその他ということでモニタリング調査、移動コンテナ局の測定結果ということで片桐係長に説明をさせますのでお願いします。

片桐係長説明

(小沢課長)

それではまたこちらで、皆さん方に報告したいことがあります。今月の 3 月 31 日をもちまして所属の役職を退任される方がいらっしゃいます。それに伴いまして、本日の会議が最後の方がいらっしゃいますので、皆様方にご報告を申し上げます。まず古町区長知久克志様。上新井区長新井正彦様。名子区長稲福裕之様、大島区長村田肇様、上片桐区長矢澤登様。福与区長北林昇様。松川町交通安全協会女性部長、神田葉子様。以上の皆様が本日の会議で引き継ぎということになりますのでよろしくをお願いします。いろいろありがとうございますお世話になりました。

(中平委員長)

先ほど、町長の方からお話がありましたけど、小学校で交通安全をやっていただきました。あれが非常に好評でありまして、児童生徒も今までダンプというものに対する怖さなど、いろいろな面でわからない所があったのが、非常に分かったというような意見もあります。

そして、そこで質問形式でいろいろなことをやっていただいて、交通安全に対する認識も、非常に強くなったような気がしておりますと同時に新聞報道でも、ああいう方ことをやったらなかなか珍しくて取り上げられたということでもあります。今度また新しく4年生になる、4年生から5年生になる子とかそういう子もいますので、ぜひもう少し続けていただければ、何回かやっていただければ非常にありがたいなと思います。それをぜひ私の方からもお願いしたいと思いますけど、ぜひJR東海さんの方でもちょっとそんなことは、心がけていただければ非常にありがたいなと思っておりますので、よろしくお願いします。

(宮下町長)

大変いろいろお話をいただきましてありがとうございます。本当にこの会議のおかげで町の安全ということ、またその先の対策に繋がっていると思います。今後どうかよろしく願いいたします。私も緊急のことがない限りは次の会議に私はいないかなと思いますので、一言ご挨拶をさせていただきます。もうほぼ全員のメンバー変わってしまいましたが4年前、この場に初めて立ったときはやはり町内での発生土活用のことで、地域間の膠着状態の中、町が手が出なくなっているというような状態でしたので、私の第一声はお詫びからスタートしました。

また、大変発生土運搬のことに關しましても、大変私の力不足でいろいろとご批判をいただくなか、本当にこの会議の皆様とこの場で時間をかけながら前に進んできたということで皆様の先輩方であり、皆様でもあります本当に感謝を申し上げます。

私の力不足で私はあと1ヶ月少しの任期を全うするところになりましたが、本当大変ななか、皆様にも叱咤激励も含め、声をいただいたおかげで前に進んでくることができました。私はこれで一住民として見守ることになりますが、引き続きまだ発生土運搬だけではなくて、リニア新幹線あくまでちょっと静岡のこともあって、分からないところもありますが進んでいきます。

ぜひこの会議前向きに、地域の皆様の安全を守るだけではなくて、何か地域の皆様のプラスになるような提案のできる会議になっていくことと思います。どうか今後もよろしく願いいたします。私から最後の挨拶をさせていただきます。ありがとうございます。

(小沢課長)

それでは最後5番の閉会ということで下澤副委員長よろしくお願いします。

(下澤副委員長)

長時間にわたり熱心にご審議いただきましてありがとうございました。

それではこれもちまして、この会を閉じさせていただきます。ご苦労さまでした。

以上